

モデル事業名	ことおこし・人おこし・物おこしによる江川の里づくり事業
活動団体名	江川地域づくり協議会
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス)
所属/ 担当者名	佐用町役場災害復興対策室 久保正彦
連絡先	0790-82-2460、kubo-m@town.sayo.hyogo.jp
活動地域	ひょうごけん きょうぐんさようちよう えかわちいき 兵庫県・佐用郡佐用町・江川地域

● 活動地域の概要

- 兵庫県佐用町の西部に位置し、岡山県に隣接している。江川地域には11集落あり、町内のなかでも少子高齢化が進んだ地域である。地域内高齢化率は38.4%(H22.9月末)となっており、高齢化が進行している。地域内でもっとも高齢化率が高い乙大木谷集落は60.5%(H22.9月末)である。少子高齢化による地域の活力低下が大きな課題となり、耕作放棄地の増加や山間地の荒廃が進んでいる。
- 11集落の世帯数、人口、高齢化率の状況(H22.9月末)
地域内の各集落の状況は、豊福集落 70世帯 172人(高齢化率41.3%)、平谷集落 31世帯 89人(33.7%)、仁方集落 42世帯 122人(38.5%)、福沢集落 85世帯 248人(34.6%)、西河内集落 23世帯 61人(34.4%)、甲大木谷 38世帯 132人(34.1%)、乙大木谷 18世帯 43人(60.5%)、淀 31世帯 72人(59.7%)、末包 23世帯 72人(36.1%)、東中山 16世帯 58人(36.2%)、大島 45世帯 136人(34.6%)となっている。
- 地域内の定期バス路線も平成21年10月末で休止され、通院、通学や買い物など日常生活に影響がでてきている。
- 地域内に1校ある江川小学校も児童数が減少しており全校生徒数42名で複式学級が導入されている。
- 地域内に産業はほとんどなく、祖先から受け継いだ田畑や山林を兼業で守っている状況である。



【兵庫県における位置図】



【耕作放棄が進む中山間地域】



【佐用町における位置図】



地域内にある農村景
観百選の棚田

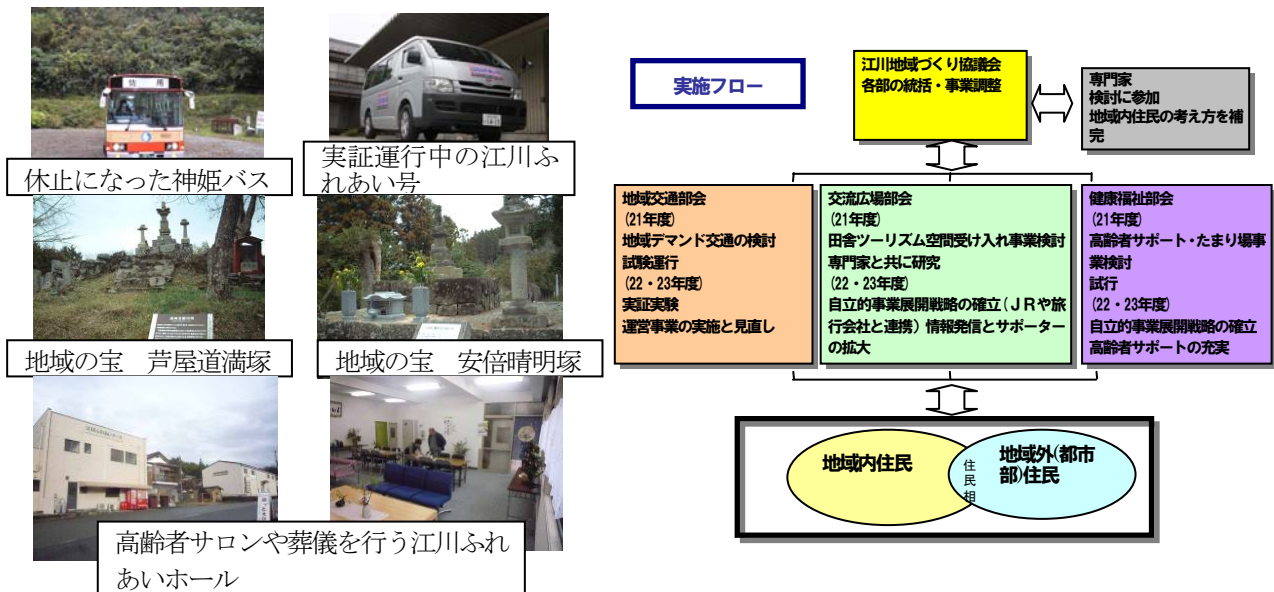
● 活動地域の課題

- ① 地域内の435世帯中、一人暮らし老人世帯78世帯、二人暮らし高齢者世帯78世帯と高齢者世帯が35%以上となっており、集落コミュニティの維持と管理が難しくなっているため、地域コミュニティで行う生活改善事業(老人見守り活動、葬儀、その他事業)への取り組みが課題となっている。
- ② 耕作放棄地がおおむね4割程度と進行中で、山地の荒廃も進んでおり、その対策が課題である。
- ③ 地域内を走っていた神姫バスがH21年11月から休止され、それにかわる地域の足の確保が課題となっていた。
- ④ 地域内の資源(自然食材や道満塚や晴明塚などの歴史資産)が過疎化と共に埋もれつつあり、地域資源伝承化と発信が課題である。

● 活動の内容

・平成22年度

- ① 地域デマンド交通の運営検討と実証運行開始(10月)
- ② 田舎ツーリズム受け入れ空間づくり事業 — 道満塚・晴明塚及び地域に自生する山野草に着目したハイキングを実施すると共に、地域資源の発掘を行った。
- ③ 地域で行う高齢者サポート・たまり場事業 — 江川ふれあいホールを利用して葬儀サポートを実施すると共に高齢者サロン(ほっとえかわ喫茶室)を実施している。



● 活動の成果

- ・山野草ハイキングの公募と江川地域交通「江川ふれあい号」の実証運行の開始など

● 直近1年間の成果(現在の活動状況を記入)

- ① 地域デマンド交通「江川ふれあい号」の実証運行開始 — 地域住民が受付から運転を行うデマンドバスを運行
- ② 田舎ツーリズム受け入れ空間づくり事業 — 道満塚・晴明塚、山野草などの地域資源を活用したハイキング実施。
- ③ 地域で行う高齢者サポート・たまり場事業 — 江川ふれあいホールを利用して葬儀サポートを実施すると共に高齢者サロン(ほっとえかわ喫茶室)を運営した。



ふれあい号 車内の様子



交通運営会議の様子



ほっとサロンの様子



山野草ハイキングの様子

● 今後の課題及び展望

- ・課題(活動を通して発見された課題等を記入)

平成22年10月1日から地域住民による地域デマンドバスの実証運行を実施している。田舎ツーリズム空間受け入れ事業では、地域内にある道満塚や晴明塚の歴史的価値を認識し、山野草と絡めてハイキングを実施しツーリズムの実施をするための受け入れのための素地を築いてきた。江川ふれあいホールを利用した葬儀や高齢者サロンでは、継続して活用を行っている。今後、自立して行うには、まだ費用面での不安があるため、今後、ある程度、費用が確保できるようにすることが課題となる。また取り組みのためには、人材の育成が必要なため、長期的視野をもって人材研修を進めなければならない。これらの事業で地域が自立した活動を行うことで、地域コミュニティのますますのつながりと交流人口の増加により、さびれた地域に賑わいが戻ることを期待している。また佐用町全体の活性化につながると信じて事業を推進していきたい。

- ・展望(今後の取り組みや検討について記入)

- ① 今後は姫路と鳥取を結ぶ中国横断自動車道姫路鳥取線(姫鳥線/2012年全線開通予定)の開通を鑑み、これにより「単なる通過ポイント」のひとつとなってしまう危惧を抱く兵庫県佐用町、「スーパーはくと」の全便乗り入れを希望する、鳥取県倉吉市などが「連携」して、智頭急行、JR西日本の利用客の増加と、魅力向上を目指す企画(地域資源である道満塚や晴明塚を活用した陰陽師の里ツアーなど)を提案するなど、他地域とネットワークして事業展開を検討する。また地域内に自生する山野草に着目してハイキングルートを設定し、地域交流人口の増加を目指す。(ツーリズムの開発)。
- ② 地域デマンド交通に取り組むことにより、佐用商店街などと連携を図り買い物難民対策を継続して実施すると共に、毎日、通院できる環境を整える。(デマンド交通の実施)
- ③ 生活支援サポートとして葬儀や高齢者サポートを実施しているが、ツーリズムや地域交通の拠点施設として江川ふれあいホールを活用するなど、さらなる事業の展開を図る。(山村生活サポート事業)

● その他(自由記述)

新たな公事業補助を頂戴し、3年計画で実施を始めたが、事業仕分けで2年目以降の事業実施が危ぶまれたが、事業規模を縮小して実施している。全国に発信できる事業展開を行うためには、補助制度の復活または新設が望まれる。